

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 22 年 2 月 18 日 (2010.2.18)

【公開番号】特開 2007-294922 (P2007-294922A)  
 【公開日】平成 19 年 11 月 8 日 (2007.11.8)  
 【年通号数】公開・登録公報 2007-043  
 【出願番号】特願 2007-80062 (P2007-80062)  
 【国際特許分類】

H 0 1 L 39/16 (2006.01)

H 0 2 H 9/02 (2006.01)

【F I】

H 0 1 L 39/16 Z A A

H 0 2 H 9/02 B

【手続補正書】  
 【提出日】平成 21 年 12 月 28 日 (2009.12.28)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

a. 高温超伝導体により被覆されたテープ導体 (11, 41, 51, 61, 71) と、  
 b. 前記テープ導体 (11, 41, 51, 61, 71) を保持する少なくとも 1 つの取  
 付エレメント (12, 42, 52, 62, 72) と、  
 を有し、前記少なくとも 1 つの取付エレメントが前記テープ導体を、実質的に 1 以上の縁  
 領域のみにおいて前記テープの主表面が前記取付エレメントと接触し得ないように保持す  
 るような限流器であって、  
 c. 前記取付エレメント (12, 42, 52, 62, 72) が窪んだ形状を有し、前記  
テープ導体 (11, 41, 51, 61, 71) が前記窪んだ形状の内部に延在する、  
ことを特徴とする限流器。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の限流器において、前記取付エレメント (12, 42, 52, 62, 72) の窪んだ形状が、前記テープ (11, 41, 51, 61, 71) に面する側において  
凹状断面の少なくとも 1 つの区域を呈するような限流器。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の限流器において、前記テープ導体 (11, 41, 51, 61, 71) が幅 w を有し、前記窪んだ形状が平均曲率半径 r を有し、 $0.5w \leq r \leq 10w$  であるよ  
うな限流器。

【請求項 4】

請求項 1 ないし 3 の何れか一項に記載の限流器において、前記取付エレメントが、前記  
テープの少なくとも 1 つの区域が延伸して貫通する窪んだ断面を有するチューブ (42)  
又は板の凹み (42) 若しくは開口 (62) であるような限流器。

【請求項 5】

請求項 1 ないし 4 の何れか一項に記載の限流器において、前記テープ導体が、該テープ  
導体の縁領域においてテープ導体の幅 w の 5 % ないし 50 % の間隙を意味する遊びで、前  
記取付エレメント (12, 42, 52, 62, 72) により保持されるような限流器。

【請求項 6】

請求項 1 ないし 5 の何れか一項に記載の限流器において、前記取付エレメントが前記テープ導体に対してパネ負荷が掛けられた当接を有するような限流器。

【請求項 7】

請求項 1 ないし 6 の何れか一項に記載の限流器において、

a . テープ導体 ( 1 1 , 4 1 , 5 1 , 6 1 , 7 1 ) が、少なくとも 2 つの隣接するテープ区域 ( 1 0 0 ) を伴う少なくとも 1 つの領域を有し、

b . 前記テープ導体 ( 1 1 , 4 1 , 5 1 , 6 1 , 7 1 ) の隣接するテープ導体区域 ( 1 0 0 ) のお互いの距離が、前記テープ導体 ( 1 1 , 4 1 , 5 1 , 6 1 , 7 1 ) のテープ幅の 1 0 % より大きい、

限流器。

【請求項 8】

請求項 7 に記載の限流器において、前記テープ導体 ( 1 1 , 4 1 , 5 1 , 6 1 , 7 1 ) が、コイル状、螺旋状、または蛇行体状の形状を有するような限流器。